

これからの社会に笑顔を

中沢中学校

一年

佐藤

咲希

私は生れつき聴覚に障害を持っていて人と交流するイベントに参加した。そこには、私にはない小さな笑顔があった。

私が難聴の方と過ごして感じたこと。外出するときは本当に快適な時間を過ごせている

のか。理由は、自分が話したときに自己紹介しなかつたことである。自己紹介をするための手話を習ったが、それ以上の会話は

できなかつた。それなら外に出たら手話が誰でもできるわけではない世の中でどう生活し

ているのか。必要なことを聞きとりづらくマスクをし、口元が見えない外の世界にどう感

じているのか疑問に思った。

外での必要な会話。思い浮かんだことは買

い物だ。た。例えば探している商品が見当たらな

いとき。私たちは気軽に店員の方に場所

を聞く。だが難聴の方はそんな気軽に聞け

るのだらうか。一人だったとき、店員の方が手話ができるとはかぎらない。そしてマスクをしているため会話の助けとなっていた口話には使えない。それなら筆談ですればいい。そんな考えは、イブントの先生により少し考えが変わった。難聴の方、全員が字幕を見て理解できるとはかぎらない。手話を一つの言語として見るなら、文字は別の言語のようになっただりもする。すべての人が正確に字を理解できるとは限らないことを知った。もちろん筆談も一つの方法として使うことはできる。だから手話も筆談もどちらも大切なことが分かった。他にも会計をするとき、カードについて聞かれたり、ビニール袋について聞かれたとき補聴器を使がっていても聞こえづかいことは多くあるそう。また、自転車のベルや車のクラクション、駅のアナウンス等、考えておる。おたくさんの不便があった。

そこで世の中に何が足りないのが考えた。
障害を持っていてる人への理解が薄いことだ。
でも点字ブロックやスロープ、バリアフリー
など社会で取り組んでいることは沢山ある。
私はこれらの取り組みは障害を持っていてる人
への「配慮」だと考えた。「理解」は本当は
多くの人ができていないと思っただ。なぜその
ような取り組みが行なわれるのか、どのよう
な所で困ってしまっているのか、すべての障害を理
解しなくてもいい。一人一つだけでも興味を
持った障害を理解すれば、と細かい場所に
も「配慮」ができると思う。
どうしたら「理解」してもらおうき、かけが
できるのか。一つ目は授業で取り入れてみる。
どんな人にも知ってもらおうことが一番だが、
これからの社会を作っていくのは、私たち子
どもだ。今、私たちが理解を深めれば大人に
な。たとき学んだことを生かして社会に伝え
ていくことができないのではないかと考えた。
社会や総合、道徳などでも興味を持つきっかけ

けを作り、深く考えていくことが大切だと思
う。そして福祉作文のように考えたことをま
とめて伝えていくことがこれから必要になっ
ていくと考えた。
二つ目は交流をする。今回私が参加したも
のはダンスに手話を取り入れたものだった。
好きなことと関連してもいい。一度だけでも
参加し交流すれば何か気づくことがあるかも
しれない。小さなことでも障害を持つている
人にとっては大事なことで嬉しいことかもし
れない。なぜ快適な世の中を目指すのか。一
人一人の笑顔が大切だから。私と交流した小
さな男の子は自己紹介しかできなかったのに
もかかわらず、すごく嬉しそうにしていた。
できないと思っっていたことができた。これほ
どううれしいことはないのではないかと考えた。
だから交流は障害を身近に感じることができ
理解することができると。そして困ることを減
らしていくことが大切だ。沢山の笑顔や幸せ
を作るために。